

令和 8 年度 名取市地域公共交通活性化推進協議会 会議録

1 日 時

令和 8 年 8 月 25 日(火) 10 : 30～11 : 30

2 場 所

名取市役所 6 階 第 1 会議室

3 出席者

別添名簿のとおり

4 傍聴者

0 名

5 報告内容 名取市地域公共交通計画の取組状況について【資料 1-1・資料 1-2】

名取市地域公共交通計画の令和 7 年度末時点の評価指標実績値及び、令和 7 年度における本市の取組状況について報告を行ったもの。

6 質疑応対

(田端委員)

資料 1-1 の P1「(1)なとりん号の利用者数(デマンド交通利用者数も含む)」は達成状況が「◎」、「(2)なとりん号の収支率(デマンド交通利用者数も含む)」は「△」となっている。なとりん号となとりんくるを分けてグラフ化し、全体像が分かるようにしてはどうか。分けて示すことで、利用者数は増加している一方、収支率は芳しくない状況が視覚的に分かるほか、どの路線で収支率が芳しくないのか、その要因についても把握しやすくなるのではないかと。また、エリアごとに分けてグラフ化することで、全体の状況を把握しやすくなり、今後の具体的なアクションにもつなげやすくなるのではないかと。利用者数が目標値を達成している一方で、収支率が芳しくない状況に違和感を覚えるため、次回の会議資料では、グラフを分けて示していただき今後のアクションにつなげていきたい。

(政策企画課)

ご指摘のとおり、今回の資料は数字や記号等の羅列となっており、年度ごとの推移が視覚的に分かりにくい資料となっていた。名取市では、防災安全課が担当する公共交通会議という別の会議があり、そちらではなとりん号となとりんくるの運行状況について、詳細に説明している。本会議においては、そうした会議との差別化の観点から、詳細な実績等をお示ししていなかった。今回のご意見を踏まえ、資料 1-2 などにグラフを掲載するなど、委員の皆様に分かりやすい資料となるよう、資料の作成方法を工夫していきたい。

今回の資料では、詳細な路線別の実績についてお示しできていなかった。全体として利用者数は増加している一方、収支率については目標達成に至っていない状況である。路線バスとして運行しているなとりん号については、利用者数が順調に増加しており、収支についてもある程度均衡がとれている。資料中、なとりん号となとりんくるの数字が合算されているため分かりづらいが、なとりんくるは収支均衡が難しい状況である。このため、利用者数は伸びているものの、収支率が目標を達成でき

ていない状況となっている。また、なとりん号についても、市内で複数の路線が運行しており、路線によって状況に差がある。愛島地区を運行する路線では利用者数が伸び、効率的な運行となっている一方、高館地区などでは、利用者数が伸び悩んでいる状況にある。このように、路線ごとに利用者数や収支の状況に濃淡があることから、次回以降、より分かりやすく状況を把握できるよう、資料の作成方法について工夫していきたい。

（鈴木（俊）委員）

田端委員の意見に関連して、資料 1-1 の P1 宮城交通関連の指標について、補足説明する。令和 7 年度は収支率が 98.4%と大きく改善している一方、利用者数は減少している。収支率が改善した主な要因は、運賃改定や減便による効率化に加え、仙台市が導入した学生向けフリーパス「どこバス」の影響が大きい。収支率が改善したことは喜ばしい一方、現在は収支率よりも運転手不足が大きな課題となっている。利用需要があっても、運転手の確保状況に応じてダイヤ数を決めざるを得ず、減便せざるを得ない状況となっている。極端な場合には、翌日・翌々日の運転手が確保できず、営業所長が休日の運転手に声をかけて勤務を依頼するほど、ひっ迫している状況にある。収支は改善しているものの、今後は運転手の待遇改善が重要であると考えている。運賃改定を実施した一方で、昨年、今年と春に賃上げを行っている。路線バスは典型的な労働集約型であるため、今後も賃上げや物価高騰の影響を直接的に受けることになり、収支を見通すことが難しい状況である。待遇改善を進めるためには、赤字はもちろん、単なる収支均衡では十分でなく、一定の利益を確保する必要がある。また、名取市から別の形で支援をいただきながら、運転手の待遇改善を図り、先行投資として人材を確保していく必要がある。尚絅学院大学の学生については、授業終了後に学生が一斉に帰宅されるため、満員のバスで通学・帰宅しており、負担をかけている状況は把握している。しかし、運転手が不足しているため、ダイヤを増やすことができない状況である。名取市に限らず、公共交通計画では利用促進や収支改善に焦点が当たりがちであるが、収支が改善されたからといって、必ずしも公共交通ネットワークが改善されるわけではない。現状の指標と実態が必ずしも一致していない部分があるため、今後、指標の見直しを図るのか、次期計画の策定に向けて検討する必要があると考えている。また、公営のなとりん号と民間の宮城交通では、立場や役割が異なる。公営には市の末端まで市民を運ぶという役割を担っている一方、民間事業者には民間事業者としての役割がある。それぞれの立場や役割を踏まえ、今後の指標検討や次期計画に反映していければと考えている。

（政策企画課）

ご意見いただいた課題等については、そのとおりだと認識している。この会議においても、以前は赤字をどのように改善していくかということが主な議題となっており、委員の皆様にも議論いただいた経過がある。一方、昨今では運転手不足など新たな課題が次々と生じている。これまでも状況についてお話を伺ってきたが、今後も市と情報共有しながら、市としてどのような方策を講じることで、持続的な形で公共交通を継続していけるのかについて、引き続き検討していきたい。また、ご意見については、次期計画の策定にあたっても参考とさせていただきたい。

（田端委員）

評価指標について、デマンド交通に着目した場合、「デマンド交通の使いやすさ」という観点からも評価指標を設けることについて、次回以降追加で検討していただきたい。予約方法について、携帯

電話から予約する利用者と電話で予約する利用者に分けて考えると、携帯電話から予約する場合は、予約状況等を確認できるほか、システムの活用によって効率的な運行につながる。一方で、運行側の効率性だけでなく、利用者側から見た「使いやすさ」についても評価できる指標を設けていただきたい。

（政策企画課）

なとりん号となとりんくるについては、この会議のほかに防災安全課が担当する「地域公共交通会議」を毎年開催しており、その中で様々な検討を行っている。なとりんくるは、令和 5 年 10 月に新たに導入したものであり、今年で丸 3 年を迎える。これまでの 3 年間の運行を通じて把握した課題や、現在進めている施策については、今回、手元に資料がなく詳細をご紹介できない状況であるが、今後、これまでの運行による課題や効果を整理し、委員の皆様になとりんくるの導入効果をお示しできるよう検討していきたい。

（徳永委員）

現計画は令和 5 年度から令和 9 年度までを計画期間としており、計画期間中は現状の評価指標で評価していくことはやむを得ない。一方、令和 10 年度を迎えるにあたり、次期計画についても議論していく必要がある。その際、他自治体では「満足度を上昇させる」などの指標を設定している例もあるため、田端委員からご意見のあった「利便性」や「使いやすさ」といった利用者目線での評価指標を設定することも考えられるのではないかと。

また、資料 1-1 の P2 事業 No2-1 から 3-1 の指標は現状値を上回っているものの、目標値と比較すると、このまま推移した場合、目標達成は難しいものがある。それにもかかわらず、達成状況が「○」となっていることで、順調に進んでいると受け止めてしまう可能性がある。現計画の期間中であるため評価方法の変更は難しいと思うが、目標値に向けて順調に推移しているのか、さらなる取組が必要なのかが分かるような表記方法について、今後検討していただきたい。

資料 1-2 に記載されている各取組について、実施した結果どのような効果があったのかについても示していただけるとよい。例えば P6 のパーク&ライド・パーク&バスライドに関する取組について、実際にどの程度の実績があったのか、可能であれば実績を示していただきたい。併せて、P8 のブルーツーリズムのナイトコンテンツに関する取組の実績についても教えていただきたい。

（政策企画課）

実績について、資料 1-2 の P6 パーク&ライド・パーク&バスライドに関する取組については、資料 1-1 の P2 「2-3 対象駐車場の利用件数」に記載のとおり、47 件の利用があったことを把握しているが、実際の駐車台数など、詳細な実績までは把握していない。また、資料 1-2 の P8 ブルーツーリズムナイトコンテンツに関する取組についても、具体的な輸送人員数については、現時点で資料を持ち合わせておらず、実績を把握していない。資料を作成する際には、取組を実施したことだけでなく、その結果としてどのような実績・効果があったのかを示すことも重要な視点であると考え、今後資料の内容をアップデートしていきたい。資料に記載している目標値に対する達成状況の記号についても、単純な達成状況ではなく、目標値に向けた推移なども含め、委員の皆様に分かりやすい形で示せるよう、資料の改善を検討していきたい。

(江間委員)

徳永委員から意見のあった「パーク&ライド・パーク&バスライド」について、事務局からも説明があったが、現状について説明する。資料 1-1 の P2「対象駐車場の利用件数」の数え方として、今回の資料に掲載している数値は、令和 8 年 3 月末時点における利用台数を示したものである。推移を見ると、令和 5 年度は 57 件と前年度とから増加しているが、その後は減少している。令和 5 年に美田園駅前に合った無料駐車場が、マンションや商業施設の建設により利用できなくなったことが、パーク&ライドの利用者数が増加した要因の一つと捉えている。現在の利用者住所を確認すると、沿線の住民がほとんどであり、沿線に勤務している方や仙台市に通勤される方などが利用している状況である。利用者を増やすため、現在、市と当社で PR を行っているが、現状では利用者の地域的な広がりにはあまり見られない。パーク&ライドをすることで通勤手当が支給され、インセンティブがあり経済的なメリットがある一方で、勤務先の敷地内に駐車場がある場合や、会社が駐車場を借り上げている場合には、自家用車を利用の方が利便性が高いと考える方もいる。そのため、現在の利用者がどのような方なのか、また、どのような方が利用を躊躇しているのかを把握することが重要だと考えている。利用しない理由としては距離的な問題も考えられるが、一般的な PR だけで利用者の拡大につながるのかという疑問もある。市内の方が、多少の距離があってもパーク&ライドを利用するのか、利用しないとすればその理由は何なのかを把握することが、目標値を達成するための方策になるのではないかと考えている。現状ではそこまでの調査分析ができていないため、今後、何かいい方法があればご意見をいただきながら、利用者拡大に向けた方策を検討していきたい。

(政策企画課)

指摘のとおり、仙台空港鉄道アクセス線を利用するという性質上、現状の利用者が沿線住民に偏っていることは、そのとおりだと認識している。また、そこから利用者を広げていくことが難しいことについても認識している。今後は、どのような方が利用しているのか、また、利用するにあたってのネックが何なのかを把握した上で、利用者属性に応じた効果的な PR を行うことが重要だと考えている。利用者の増加につなげられるよう、仙台空港鉄道様とも連携しながら、PR 方法について検討してまいりたい。

7 その他（意見交換等）

(小山委員)

「おでかけ交通博 2026in あきた」というチラシをお配りした。本イベントは、東北運輸局が主催し、東北 6 県を順番に回って開催しているもので、今年は 10 月に秋田で開催することを予定している。当日は、東北管内の事業者や自治体が、それぞれの取組について発表するほか、大学の先生や事業者による講演も予定している。どなたでも参加できるイベントとなっているため、興味のある方は申込みの上、参加いただきたい。

(田端委員)

会長から「持続可能な公共交通機関でありたい」との話があり、宮城交通様からも運転手確保に向けた処遇改善について協力していただきたいとの意見があった。こうした状況を踏まえると、収支率の目標のあり方についても検討していく必要がある。周囲の経済環境等も考慮しながら、交通事業者が人材確保に向けた取組を進め、その結果として収支も改善していくことが理想的だと考える。その

ような理想的な状態になるためにも、収支率について、単に目標値を設定するだけではなく、目標の設定根拠やその内容についても見える化を進める必要があるのではないか。

（政策企画課）

先ほども述べたとおり、来年度から次期計画の策定に向けた検討を進めていく予定である。令和 10 年度以降の新たな計画の策定にあたっては、今回ご提言いただいた内容も踏まえ、取組の効果をより具体的に把握できるような KPI の設定などについて検討していきたい。

令和 8 年 8 月 25 日

会長 渋谷 武志

名取市地域公共交通活性化推進協議会委員 名簿

	職 名	所 属 等	氏 名
1	会 長	名取市 副市長	渋谷 武志
2	副会長	宮城大学 特任教授	徳永 幸之
3	委 員	名取市 副市長	門脇 雅之
4	委 員	名取市 総務部長	安倍 卓
5	委 員	名取市 企画部長	佐藤 徹也
6	委 員	名取市 健康福祉部長	中山 聖子
7	委 員	名取市 生活経済部長	小松 政博
8	委 員	宮城交通株式会社 営業部統括兼企画課長	鈴木 俊介
9	委 員	株式会社ミヤコーバス 執行役員 南部地区支配人	鈴木 克彦
1 0	委 員	大新東株式会社名取営業所 所長	田村 篤人
1 1	委 員	有限会社増田タクシー 常務取締役	桃野 博行
1 2	委 員	名取交通株式会社 安全統括運行管理者	菅原 幸一
1 3	委 員	株式会社なとり川交通 専務取締役	佐藤 敏彦
1 4	委 員	東日本旅客鉄道株式会社 仙台事業本部 総務部 経営戦略ユニット 企画課長	小池 靖人
1 5	委 員	仙台空港鉄道株式会社 代表取締役専務	江間 仁志
1 6	委 員	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所 岩沼国道維持出張所 所長	本多 伸行
1 7	委 員	宮城県仙台土木事務所 道路部長	加茂 康治
1 8	委 員	名取市 建設部長	大沼 孝宏
1 9	委 員	岩沼警察署 交通課長	高松 康子
2 0	委 員	名取市区長連絡協議会 会長	嶺岸 健二
2 1	委 員	名取市老人クラブ連合会 会長	田端 幸男
2 2	委 員	名取市地域婦人団体連絡協議会 副会長	村上 禮子

2 3	委 員	名取市身体障害者福祉協会 会長	熊谷 広基
2 4	委 員	東北運輸局宮城運輸支局 首席運輸企画専門官	小山 和恵
2 5	委 員	宮城県企画部地域交通政策課 総括課長補佐	矢部 優司
2 6	委 員	宮城県交通運輸産業労働組合協議会 特別幹事	大浦 弘二
2 7	委 員	仙台市都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 課長	菊池 信幸
2 8	委 員	名取市商工会 会長	洞口 祐一
2 9	委 員	名取市観光物産協会 会長	佐々木 洋

：当日欠席者

職 名	所 属	氏 名
事務局	企画部政策企画課長	針生 大輔
事務局	企画部政策企画課長補佐	西城 卓哉
事務局	企画部政策企画課政策係長	菅原 功司
事務局	企画部政策企画課政策係主事	菊地 翔太